

令和3年度総合情報基盤センター研究開発報告書

令和4年5月31日

研究代表者	氏 名		所 属
		呉 紅華	
研究分担者	于 佳		李 岩
	王 晨		顧 紅英
研究協力者	永利 結衣		
研究課題	初修中国語予習復習用副教材の研究と開発		
研究開発期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日		
研究の概要	<p>(1) 研究開発の動機</p> <p>コロナ禍の中で語学講師が遠隔授業の準備に追われ、履修学生は遠隔授業を受けたものの、実際の会話練習ができず、授業以外の予習復習は一人で何をすればわからない2020年だった。また第二外国語の授業が大幅に削減される動きの中、正規授業の教授方法や教科書選定を工夫するだけでは学習効果を高めることに限界を感じる。学習目標を達成するためには履修学生自身の予習復習時間の有効利用が必要である。そこで開発したのが本語学研究教育センター独自の練習問題自習用eラーニングである。</p> <p>(2) 研究開発の目的</p> <p>履修学生がパソコンやスマートフォンを用いて、いつでもどこでもシラバスの進度に合わせて出題された練習問題を解くことができる。教員はいちいち時間をかけて採点する必要がなく、Moodle上で自動採点を行う。シャッフル設定なので、正解まで何度も挑戦できる。期末試験でもそれらの練習問題を再利用できる。終了後にフィードバックもできてデータを分析して学習の問題点を改善するにも役立つ。</p> <p>(3) 研究開発の目標</p> <p>正規授業数が減らされる中、勉強時間を確保し学習効率を向上させるように開発した予習復習用eラーニングをより多くの学生（特に新1年生）に利用してもらおう。繰り返し練習問題を解くことによって以下の目標を目指す。</p> <p>① 履修単位取得数の向上 ② 2年生の継続履修者数を増やす ③ 中国語検定とHSK検定試験合格率の向上</p> <p>以上の三つの目標に繋がるようにする。</p>		
研究の成果	<p>履修学生は授業外学修時間に繰り返し練習することで発音の弱点を克服し、学習した内容を定着させて全学共通科目の中国語の学習効果を高める。また中国語検定対策としても確実に合格率を上げる。</p> <p>語学教員の採点時間の削減、学生自習時間の確保、データが蓄積され、同じ練習問題を翌年の新1年生にも利用できる。数年間の継続実施によって各年度のデータを分析し、より効果的で、負担の少ない語学教育を目指せる。</p> <p>以上の研究開発によって、中国語履修者の授業以外の予習復習用の副教材として活用している。</p> <p>今後は前期の実施データを集計し昨年度の実施状況と比較し、それらの学習効果、作業削減などのメリットをまとめることができる。</p>		

以上

※ 提出締切日：令和4年5月31日（火）（期限厳守）